

辺土名小学校二学期のリフレクション（雑感）

「学校現場は忙しい。」学校における諸行事、日常授業の準備運営、教材研究、場合によっては保護者への対応。さらに、今の時期となると学期末事務整理など、校務分掌上の校務が担任を責め立てる。

しかし…発想の視点をちょっと変えてみよう。例えば「忙しくない学校ってあるんだろうか？」…聞いたことがない。「多忙」と「多忙感」の違いがある。「教師の仕事はみんな一緒、みんな忙しいのです。その忙しさの同じ状況をどう感じるかが『感』です」。毎日コツコツと愚痴もこぼさず、常に子ども達の前では笑顔で向かい合いががんばっている教師もいれば、職員室や教室で、「いそがしい、いそがしい」を連発し、口だけが動いて手と足が重い教師もいることは事実です。さて、この各々の教師が持っている「感」の違いはどこからなぜ、くるのでしょうか。…今も私の目の前に、ぱたぱたとせわしく動き回る教師達がいる。1年の3分の2が終わろうとしているこの時期に、「私はほんとに素敵な同僚に恵まれて幸せである。」と言うことが言える。おかげさで、お世辞に聞こえるかもしれないが、これが久しぶりの現場復帰の「私の事実」です。

【リフレクション（校内散歩より）】

〔情操教育〕

朝の栽培委員会の活動。全校生徒 138 名、委員会活動も少ない人数で校内の美化活動に取り組んでいる。毎朝、登校したら学年（特に低学年）の花壇の草取りや、プランターへの水やり等に精をだす。時には担当教諭の指示を仰ぎ、100 以上あるプランターの移動や整理もおこなう。実にコツコツと地味な活動である。



情操教育における態度の育成で、よくスローガンを掲げ、旗を揚げ啓発活動や態度の育成を図ろうとするが。派手な取り組みだけで満足してはいけない、豊かな心の育成や思いやりの心は、実に地味な行為によって実証されていくのである。

左の写真、うつむいてコツコツ！この地味な活動のおかげで、やがて満開の時が来る。この子ども達の活動から、

教師達が何が語れるかが大切な学校教育の営みとなる。子ども達の地味な活動や行為は校内でもたくさん見られる。素敵な子どもたちの地味な活動や、静かな言葉に眼を向けて「豊かな心」の育成を目指していきたい。

〔教師たちの挑戦〕 辺土名小 11 月からの校内研テーマが「ジャンプ課題の設定」である。理科専科の教師は、本屋で理科の問題集を買い込みジャンプ課題を探す。インターネットで検索し探す。人の話から探す。



ジャンプ問題の意義や効果、子ども達にとっての価値や授業理解の有効性については理論研修で共通理解した。あとは、自分が授業でやってみて感じていくしかない。つまり、やってみないことには、理論の検証や有効性、その価値については語れない。

今日は、私立の某中学校の入試問題から 2 問準備して授業をデザインした。授業者は右写真の《授業では》《グループでは》を音読させながら確認し、最初のプリントを配布した。後は、子ども達の学び合いを信じて「待つ」である。この学年が 3 年生の後半から「学び」スタイルの授業形態で進めている。今年 6 年生になった、途中で担任が代わるなど、いろいろな状況や壁を乗り越えてきた。「自分たちで支え合うしかない」、「自分たちでやった方がいい」この悟りがひらかれた仲間の結束は強い。担任は 1 年で替わるが教室の仲間は一生涯つながっている。授業者の簡単でない問題の提供で支え合う必然が生まれる。授業者の挑戦が、子ども達の挑戦に変わる瞬間である。

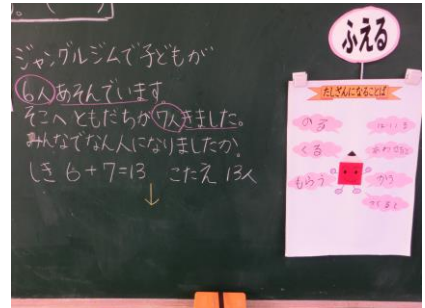
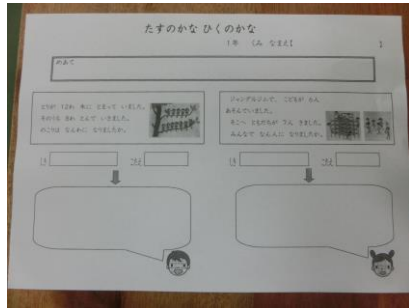
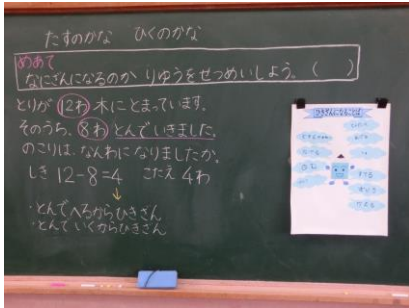


[12月10日(水)] 1年 学びをいかそう 「 たすのかな ひくのかな 」



朝、出勤すると1年の担任の先生が授業デザインシート持って、「お願いします。」とのこと。教科書の学びをいかそうの単元でジャンプ課題を設定して挑戦してみる。校長先生に取り次いで3人で授業研となった。6月にも(RシートNo.123)参観させてもらったが、その後も何度も授業を覗かせてもらっている。いつ行っても教室が整然とし、学びの環境が準備されている教室である。

授業は、たし算の根拠、引き算の根拠となる言葉を見つけ説明する。単なる、計算技能ではなく「～だからたし算になります。」「～だからひき算になります。」とペアやみんなに説明できることが目標である。かわいい子ども達のやりとりに一喜一憂の授業でした。



[しっとり静か、安心できる授業] 教師の言葉が子どもの心に届く授業

下の写真、まず一番いいのは子ども達のくつつき具合である。寄り添っている、さらに仲間が特定されない、誰とでも学び合え、自分の考えが交流できることである。基本話形での対話は難しいが寄り添うことによって自分の言葉で小さな声でも仲間に伝えることができる。右写真①、困っている仲間



[写真①の場面について校長先生の手記]

今日のペア学習でとても感動したことは、MさんとAさんのペアです。問題2の場面で「なぜたし算なのか」を文章で書く場面がありました。Aさんがなかなか書けないので、Mさんが自分が書いた文章を写させていました。ジャングルジムのカタカナが書けなくて進めないAさん、ジャングルジムの「ジ」を書こうとしますがうまく書けず、何度も消しゴムで消しては、また書いてを繰り返していた。他の子ども達は先生に黒板前に集められてペアで話し合っていたが、それでもMさんは嫌な顔ひとつせずAさんに寄り添っていた。MさんからはAさんをせかさ様子も全くうかがえない。

やがて、MさんからAさんに、「わたしが『ジ』をかからあととは自分で書いてみて」とうながした。Aさんがジャングルジムと書き終えたときには、とうとう座席には二人しか残っていませんでした。その後Aさんがやっとのこと書き終えるとMさんはAさんの手を引いて、一緒に黒板前のみんなの中に入っていった。みんなの中に入ったAさんも、ニコニコと満足そうな表情で話しに参加していた。

二人の様子を、初めから観ていた私は涙が出て、涙が出てしょうがない。授業を参観して初めて涙する感動を味わった。「なんと優しい子だろう。」「なんて素敵な子だろう。」

これが「学び」の学校改革なのだろうか。まさに子どもは天使である。これからも謙虚に授業者や授業、そして子ども達から学んでいきたい。



左写真、AさんとMさんのやり取りを見守る校長先生です。この後、ハンカチを取り出して窓際に向かっていました。

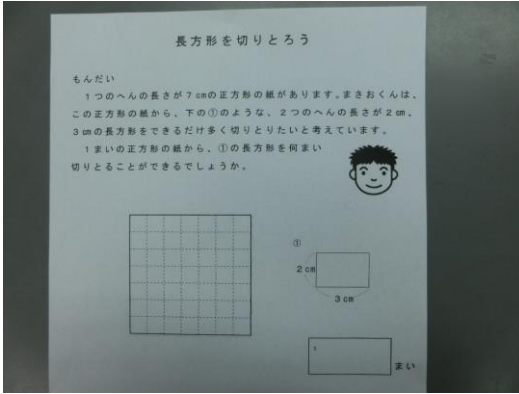
右写真、授業終了後、次の体育へ向かった子ども達の机の上の着替えです。

お家ではできていない子でもできるんですね・・・なぜでしょう？

学期末感動の授業研でした。感謝！



[12月11日] 2年 算数 単元テスト終了後にジャンプ課題に挑戦



11月からの校内研テーマに挑戦である。今日は単元テストなので、テスト終了後の時間にジャンプ問題への挑戦だ。

左問題、はじめは、なんの指示や確認もなく、自力でチャレンジする。仲間ときき合いながら先生に確認する。なんと、この時点で一人の男の子が正答した。私もびっくりである。レベル的にかなり高い問題と思うが、1回教師に確認したが『残念』と戻されたあとにすぐにできていた。しかしさらに面白いのはその後、すぐさま分からない子ども達が聞き寄るかと思ったら、意外とみんな冷静に自分で何とかやろうとがんばっていた。

結局はペアや周囲の仲間ときき合いながら確かめながら7名の子ども達が、何とか時間内に正解まで至った。

ほんとによくガンバル子ども達である。安心しました。



写真①



写真②



写真③

写真①、開始から10分、問題をD T Vに投影し、問題の意味を確認する。子ども達の手握られた鉛筆が一気に動き出す。写真②、依存ができない子に寄り添う教師、となりの仲間も見守る。写真③、給食時間に教頭先生と自分たちの授業のビデオを観てリフレクションする。子ども達じつに楽しそうに観入る。

[12月12日] 道徳推進教師による 3～6年 「道徳の時間」 特設授業。 学習指導要領内容2-(2)



ねらい：難聴者と直接話したり、ふれあうことで難聴者への理解を深め、思いやる心の育成を培う。

なんと、道徳推進教師による特設授業である。教務や担任と時間割を調整し、3～6年まで4クラスで授業を行った。

子ども達の目がすばらしい！

子ども達の「聴きたい」「考えたい」「理解したい」の思いが言葉や態度からひしひしと伝わってくる。難聴者の聞き取りにくい言葉を分かって静かに口元を見つめている。写真は5・6年生の授業である授業者の「『どんなつらいことがあったと思う』ちょっと周りの人たちと話してごらん。』、5年生も6年生も一斉にきき合う。

すばらしい授業、感動する授業とは…考えさせられた。子どもが証明するんです。

[ぼくも挑戦] 5年 国語

10月からの臨時教師が、「ぼくもやってみます」うれしいの一言である。

上手、下手は関係ない、「僕なりに進みゆくこと」それだけでいい。



[12月15日] 授業参観日 2・4・5年で保護者参加の授業デザイン

2年生と、4年生の図工で親子での作品作りである。子ども達はちょっと恥ずかしそうだが、明らかに「嬉しい、楽しい」である。さらにうれしいことは、保護者が参加できていない子どもにも参加者の心が向けられていたことである。

5年生の家庭科のミシンでのリュックサック製作にも、数名のお母さん方が手伝っていた。「学びの共同体」では授業参観よりも「授業参加」によって、学校教育や、子どもの学びや成長に関わりをつくっていきたいと考える。

